

# ガラスの魅力を発信する 「秘密基地」



Glass Studio  
SHIMA・SHIMA

奥沢十字街から天神に抜ける国道393号（若松線）沿いにあるGlass Studio SHIMA・SHIMAは、訪れた人から「なんでも出てくるドラえもんのような場所」と言われるほど、道具や素材が所狭しと並んでいます。ここではガラス細工のほか、サンキャッチャー（クリスタルガラス製のパーツを用いて作成したインテリアアクセサリー）作り、型紙を使ったワックショップなども不定期で行われ、最大10人まで参加できる賑やかな空間のガラス工房です。

## ○ガラスとの出会い

代表の杉岡詩麻さんは、もともとガラスに興味があった訳ではなく、就職したザ・ガラス・スタジオでの販売の仕事からガラスの世界に足を踏み入れました。テレビで見たことのある会社だという軽い気持ちで働き始めましたが、毎日、現場でガラス作りに携わる職人たちの姿を間近に見ていると、次第にその世界に惹かれていったといいます。当時は見習いがとても多く、自分が制作側に入る余地はなかったものの、「やってみたいかったな」と今になって思うほど、ガラス制作の仕事は見ていても楽しく、魅了されるものだったそうです。

その後、市内土産店に勤め、ガラス専門店の立ち上げにも携わることになりましたが、2011年

に母親が倒れたことをきっかけに退職しました。前職ではガラス制作も行っていました。が、雑用的な仕事も多く、自分でもっと自由にガラス作品を作りたいとの思いから、2014年11月に創業しました。

## ○ガラス作り

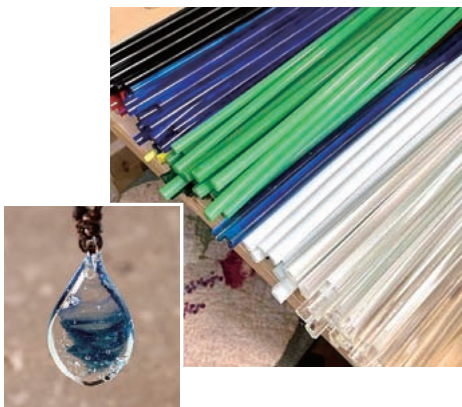
工房では、吹きガラスとは違う技法で、ガスバーナーにガスと酸素を注入し、温度が1,200℃～1,500℃になる青い炎でガラス棒を溶かし、回転させながら形を整えていきます。彩色は色が付いたガラス棒や粉状の色ガラスを使用します。ガラスが溶けているときにガラス用ピンセットでつまむことで、気泡を入れることもできます。最後に窯でゆっくり焼成することで、割れにくい作品になります。

また、ガラス板に粉状のガラスを振り掛けて焼成し、表面を溶かしてつやを出したり、あえて溶けきる手前で焼き止めて凹凸感を残したりと、温度と時間の調整でさまざまな表情を引き出しています。作品はアクセサリーやサンキャッチャー、お皿など、日常で使える小物を中心に制作しており、これまで50種類以上の作品を作ってきたそうです。全て手作りなので同一作品はなく、手に取ってお気に入りの作品を購入いただけます。





日本の伝統・開運文様『麻の葉』（魔除け、厄除け、繁栄の意味もある開運文様）をモチーフにした贈り物に喜ばれている「麻の葉」シリーズ



ガラス棒をガスバーナーで溶かしながら形を整え、「泡しずく」が出来上がります。この空のような海のような、青と泡のしずくのやすらぎを表現した「泡しずく」ペンダントも人気がある作品です



女性に好評のラベンダーシリーズ  
癒し力の高いラベンダーカラーのピアス・イヤリングやネックレスなどのアクセサリ



店内は、ブローチやピアス・イヤリング、ガラスのペンダントにアロマオイルを入れ、胸元で優しく香るアロマペンダント、誕生月のラッキーカラーのペンダントなど豊富な手作りのガラスアクセサリ・雑貨が並べられています



## ○秘密基地

年齢とともに老眼が進み、細かな作業がいつまでできるかという不安もありますが、手先を使い続けることが「ボケ防止」にもなると前向きです。周囲には年齢を重ねても作品づくりを続ける作家仲間が多く、「自分も工夫しながら長く続けたい。仕事は楽しくないと続けられない」と言い切り、自分の工房を「秘密基地」と呼びながら、楽しさを最優先に日々の制作に向き合っています。

取材からはこの工房は、単にガラス作品を販売する場所ではなく、作り手自身が学び続け、好きなこ

## ○オリジナリティ

作品にオリジナリティを出すため、着物の文様に使われる江戸型彫りや、渋紙を小刀で切り抜く伝統的な型紙作りも学び、それをガラス作品に取り入れています。細かな柄を切り出してガラスに模様を写し取る作業は、集中力と根気が必要な細密な仕事ですが、その工程自体を楽しんでいる様子が伝わってきました。また、平取町の鈴蘭鑑賞会でアクセサリを販売した際に見つけたアイヌ文様に関心が高まり、「アイヌ文様は複雑ですが、できる範囲で型に起こし、その奥深さをガラスで表現してみたい」と、ガラスに応用できる様々な物とコラボした新たなオリジナル作品制作にも挑戦しています。

とを形にし、それを通じて人とながらための「秘密基地」なのだと感じました。

## ○小樽ガラスを盛り上げたい

「小樽といえば吹きガラスのイメージが強いけれど、それ以外にもアクセサリやフュージング（板ガラスを電気炉で熔着する技法）作品など、さまざまなガラスの世界があることを知ってほしい」とメジャーに押し上げたいと強い思いを抱いていました。将来的には料理が好きなので近隣の高齢者等のための惣菜販売や、カフェを併設し、ガラス作品を眺めながらゆっくり過ごせる場にしたという夢も語られました。



### Glass Studio SHiMA・SHiMA

住所：小樽市奥沢3丁目27-25  
電話番号：0134-31-2421  
営業日：ガラス製作や物産展出演等により、不定期のためホームページ内の営業日カレンダーをご覧ください。



ホームページ